

2024年3月期 第2四半期決算に関する主なご質問

- Q: 第2四半期の営業利益について、前年同期比では増益だが前四半期比では減益となっている。前四半期比で減少している主な要因は何か？
- A: 主に景気減速の影響を受け、欧州建築用ガラス事業の販売数量と販売価格が低下しているためです。
- Q: 自動車用ガラス事業における価格改善交渉については地域ごとに濃淡があるか？また、販売価格が低下した地域などはあるか？
- A: 販売価格が低下している地域はありません。また、価格改善交渉の進捗は地域ごとに若干の濃淡はあるものの大きな違いは無い状況です。天然ガス等の燃料価格だけでなく、原材料やその他コスト上昇を踏まえた価格改善交渉も推進しています。
- Q: 欧州の建築用ガラス事業に関して前年から販売数量が減少しているが、数量改善の兆しはあるか？ボトムは脱していると考えているか？
- A: 販売数量改善の兆しは見えません。様々な経済指標は直近においても改善していないことから、ボトムを脱したかどうかについては判断が非常に難しく、今回の下期業績予想据え置き理由の一つとなっています。
- Q: さらなる収益力の改善には自動車用ガラス事業の改善が不可欠だが、同事業の営業利益率はどのように改善していくか？
- A: 自動車用ガラス事業の収益性は地域ごとに異なっており、今後は欧州と北米で収益力の改善に注力する必要があります。また事業ごとには、新車用ガラスではヘッドアップディスプレイ付きのフロントガラスやEV向け調光機能付きの大型ルーフガラスなど高付加価値製品の拡大を中心に改善を進めていきます。
- Q: 今回通期営業利益予想を70億円上方修正し420億円としているものの、上期の営業利益が260億円であることを踏まえると下期は減速しているように見える。この理由は何か？
- A: 欧米を中心とした景気減速など不透明な事業環境を踏まえ、下期の予想を据え置いています。足許では欧州建築用ガラス事業で販売価格の低下と販売数量の減少が続き、高機能ガラス事業は引き続きIT市場減速の影響を受けると見えています。
- Q: 太陽電池パネル用ガラスについて、主要な顧客が米州においてさらなる生産能力増強を掲げているが、どのような対応を検討しているか？検討のポイントは何か？
- A: 財務状況を踏まえながら、できるだけ少ない投資でできるだけ大きな利益をあげることができる選択肢を検討しています。
- Q: 業績が改善傾向にあるが、今後の財務戦略はどのように検討しているか？
- A: 借入金の返済やA種種類株式の償還などは次期中期経営計画の計画数値に基づき議論を進めています。